

第 17 回：日本の茶道文化

会長 田中 仙堂

大学で茶道文化について講義をした終わりに、学生が私のところによってきて、「世界史受験ですから考慮して話をしてください」と告げられたことが何度かありました。茶道文化を説明するときに、無意識に、日本史の知識を前提としたことで、理解できなかったということでしょう。

「日本の茶道文化」は、日本の歴史や文化の流れの中で生まれ、育てられ、変化し、今日にいたったものです。茶道だけが隔絶した世界として発展したわけではありません。

お茶が日本文化を代表するものと誇りを持っていただくことは結構です。しかし、それが行き過ぎてお茶だけで日本の文化のすべてが語れると思ったら、それは大いなる間違いになります。お茶が「日本文化の集大成」であるという紹介の仕方は、その大いなる間違いを起こしやすいのではないかと感じております。むしろ、お茶は「日本文化の窓」であり、お茶という窓を通して、日本の歴史や文化に興味や関心を広げていけるものである、と捉えていただきたいと思っております。それが、「お茶から広がる和の世界」と申し上げている理由の一つでもあります。

平成 28 年 4 月発行 会報「えんじゅ 87 号」掲載